

# アイテムしごと探検隊

●実施日：2007年8月8日(水)  
ツインリンクもてぎのお仕事探検！



## 隊員の感想コーナー

- クルマを実際に組み立てたり、いつもは見られないASIMOのコントロールルームを見て楽しかった。(小峰さん)
- 今まで知らなかった仕事を見られて良かった。(村椿さん)
- ツインリンクもてぎには何回か来たことがあったけど、普段行けない場所に行けて、たくさんのお仕事を見られた。(和久くん)
- スタッフの人が優しく、珍しい場所にも行ってよかったです。(大滝さん)
- クルマを作るのがおもしろかった。またやりたいです。(木村くん)
- ASIMOを動かす部屋にたくさんのお機械があって驚きました。(斎藤くん)



●隊員紹介(あいうえお順)  
大滝さん(5年生) 大塚くん(6年生) 木村くん(6年生)  
小峰くん(6年生) 小峰さん(5年生) 高藤くん(5年生)  
半田さん(6年生) 村椿さん(6年生) 和久くん(5年生)

### スタッフからみんなへ

- 1日を通してたくさんの人や色々な仕事に出会いましたね！仕事ってどんなものか、少しでも感じてもらえたら嬉しいです。(M)
- 今日見たこと、やったことで「楽しい」「良かった」「驚いた」ことを忘れないでね。将来、やりたい仕事をみつけるときの役に立つはずだよ！(N)



TWIN RING MOTEGI ツインリンクもてぎ  
(株式会社モビリティランド)  
栃木県芳賀郡茂木町松山120-1 <http://www.twinring.jp>

那珂川流域の豊かな自然の中に広がるツインリンクもてぎは、1997年に日本唯一のスーパースピードウェイを持つモータースポーツフィールドとして誕生。「アメリカン・モータースポーツ」という新たな文化をもたらしました。運営するモビリティランドはHONDAのグループ会社。鈴鹿サーキットと共にモータースポーツのノウハウを結集し、訪れる人にモビリティ(乗り物)の楽しさや感動を届けるエンターテインメントを提供しています。



安全で公平なレースをするために  
ヘルムを守る事が大切！

今回の探検先は宇都宮郊外にある「ツインリンクもてぎ」。雄大な山を切り拓いて造られた自然豊かなこの施設に、隊員たちのほとんどは来たことがあるそうだが、今回は初めて会う仲間と一緒に、これからどんな事が起こるのか、不安と期待が入り混じった顔をしている。そんな中、はじめにやってきたのがコントロールタワー(管制塔)だ。いつもは入れないこの場所で、モータースポーツの専門家である角田さんがレースをするために大切なことを教えてくれた。



自分で組み立てたクルマに乗った！  
ファンファンラボ

まだ小学生である隊員たちがクルマを運転できるようにするのはもう少し先。だが、この施設には乗り物が好きな人すべてが楽しめるアトラクションが揃っている。「ファンファンラボ」では、クルマを作る技術を結集して誕生した「足歩行ロボット」ASIMOがダンスを披露。軽やかなステップを見せてくれた。ステージ裏のコントロールルーム(非公開)に入ると、7人のスタッフでASIMOを動かしている。クルーになるためには、毎日練習しても1カ月程かかるということだ。壁一面に重ねられた機械を見て、目をキラキラと輝かせる隊員たち。難しいことも、見てみたい好奇心でいっぱい。この後、サスペンションとタイヤとの組み合わせがクルマの乗り心地と速さにどう影響するかを体験。硬い足回り、柔らかい足回りのクルマを乗り比べて大満足の様子。何かを作り上げた達成感、仕事をする楽しさに似ているかも知れない。クルマに詳しい隊員も、そうでない隊員も仕事の面白さを感じてくれたようだ。

# レースの安全を守る仕事。 探検の成果は「ライセンス」だ！

たとえばコースの中や外で振られるフラッグにはさまざまな色や模様がある。黄色は「コース上に何らかの危険あり。他のマシンを追い越し禁止」という意味。マシンに乗るドライバーやライダーはもちろんのこと、レースを運営するために働く「オフィシャル」になるにも、チームを組織する「エンタラント」という仕事をするにも、レースに関わるすべての人がフラッグの意味をはじめルールを理解し、「ライセンス」を取らなければ参加できない仕組みになっているのだ。バイクが走りだしてコースに入るとき、ふと後ろを振り返って手を上げる。これも合流する「というサイン」。「ルールを守る」ということが大切だと知り、緊張していた隊員もメモを取りながら真剣に話を聞いていた。



安全を支える仕事  
ヘルムを見たときの驚き



最後に発表！  
一人ひとりが考えたこと、グループで話し合ったこと

今日は楽しく遊ぶだけでなく、サーキットの裏側を見せてもらうことで多くの仕事があることを知った。ドライバーやライダーを主役としたら、フラッグを振るコースオフィシャル、救命士は人の命を守る大切な役割を担う。また、安全かつ速く走るクルマを設計、製作するエンジニアはレースを盛り上げる「縁の下の力持ち」だ。それぞれが真剣に仕事をして、役割を果たすことでみんなが安全なレースを楽しく見ることができるとのことだ。最後に隊員たちとの話し合いの中で、「仕事はお金ももらって生活するためにするもの」「仕事に行けば好きな人もいるし嫌いな人もいる」という意見が出た。確かに間違っていない。けれど、「世の中の」ためになることをする」という意見はとても貴重だった。



仕事は厳しいかもしれない、疲れるかもしれない。でも、たくさん勉強して、なりたい仕事に就く。仕事は周りにいる人を喜ばせるだけでなく、自分の夢や希望をかなえるものだ。「仕事って大変そう。でも楽しそう」との意見は、まだ目指す仕事が決まっていない隊員にも勉強やスポーツの練習に打ち込む勇気を与えたようだ。マネージャーを守って安全に探検してくれた隊員たちに、主催者からありがとうの気持ちをこめて、「修了証」というライセンスを贈った。

